

四万十の風音

しんせん

森&川だより



キシツツジ

雪にも負けず

1月13日、四万十市立津野川小学校5・6年生を対象に「土佐堂ヶ森」において、森の中で遊び、木に触れ、自然に親しむ森林体験学習を支援しました。当日は樹木の学習(樹名板取付)を実施しましたが、突然の雪のため予定していたネイチャーゲームはやむなく中止となりました。

樹木学習で覚えた樹木への樹名板取り付けは記念になることから、皆大喜びでした。なお、今回の日程で出来なかった学習は、引き続き4月に実施する予定です。



樹名板取付け



樹木の説明

うまくできるかな木工体験

1月15日、大月町立大月小学校(平成21年4月開校)で、1・2年生70名を対象に、四万十森林管理署の貝ノ川と三崎の両森林官の応援を得て、森の大切さを伝える紙芝居と木工教室を実施しました。

木工教室ではクマのストラップと小枝の鉛筆「モックン」を作りました。

クマのストラップは、準備したパーツを持参し、各自が顔・目・鼻・口・耳などを選んで台に貼り付けました。できあがった自分だけのストラップに児童は大喜び。

「モックン」は、鉛筆に見立てて先を塗ったり目や口を付けて完成させ、思い々の色や形に仕上がりました。

この日の木工体験を機会に、木の利用を考えたり森林や自然環境への興味に繋がることを願っています。



スクリーンを使った紙芝居



互いに話し合っ

自分のアイデアを生かそう

1 月 28 日、四万十市立具同小学校から要請を受け 5 年生 84 名を対象に、木工教室を行いました。

最初に木材の持つ色々な特徴を説明しました。中でも世界で一番重い木材として知られるリグナムバイタを使った「水に浮く？」実験などによって、水に沈む木があること等、関心の持てる内容を交えながら説明しました。

その後、4 班に分かれプレート作りを始め、木の枝を様々なサイズに切り木の板に貼り付けました。前もってデザインを考えていたせいか、個性的な作品やデザインに凝った作品が見受けられ、満足そうな表情でした。中にはじっくりと時間をかけたい児童もいるようでした。

木の素材をうまく生かしながら、作品を作ることで木の素朴さ、使い易さも感じ取れたと思います。この木工教室を通して木の良さが学習できたことと思います。



木の良さを生かして



完成作品

四万十川源流で「森・川・海」のつながりを学ぶ

1 月 29 日、須崎市立吾桑小学^{あそう}5 年生 13 名を対象に「森・川・海」のつながりについて森林教室を行いました。

当日は、寒い中ではありましたが、樹木を観察しながら元気に不入山^{いらずやま}の四万十川の源流点を目指しました。

源流点では四万十川にまつわる話題として、川の長さ、名前の由来等について説明しました。児童達は一筋の流れが幾つも集まり、大きな四万十川のスタート地点であることを、実際に現地の自然や水に触れ感じとったことだと思います。

下山後は「森・川・海のつながり」を説明しました。児童からは「森林から魚に必要な栄養分が多く川や海に流れ出して、魚場を豊かにしている」等、学習した内容や理解したことについて発表がありました。

児童たちは今回の学習を通じて、森林の「大切さ・恵み」が十分理解できたと考えます。



木の特徴の違い



森・川・海のつながり

シイタケ駒打ちに挑戦

2月8日、四万十市立^{わらびおか}蔵岡小学校全校児童59名を対象に、「山の学習」としてシイタケ駒打ちの体験学習を指導しました。

始めに、「きのこ」は森の恵みとして人気の食材であること、胞子でふえること、傘の形や生え方にも色々あることなどを説明しました。

そして、作業方法や栽培の注意点を説明した後、上級生が原木のクヌギにドリルで穴を開けました。原木に千鳥足状の穴を空けることは思いの外難しく、悪戦苦闘の様子でした。この日できあがった長さ30cmの原木は、それぞれが家に持ち帰ってシイタケが生えるまで観察し、1mの原木は学校で観察するそうです。

シイタケが生えるまでには時間がかかりますが、「生えてくるのが楽しみ！」との感想も聞かれました。気長に観察を続けてほしいと願っています。



駒打ち作業説明



駒打ち体験

親子レクリエーションで木工教室

2月20日は宇和島市立鶴島小学校4年生の親子50名を対象に親子木工教室を行いました。これは、学校の親子レクリエーション行事の一環で、木の特徴等を学習しながら木工を楽しむものです。

始めに、「木材の特徴」・「年輪」について説明、「木の比重」の実験を行なうことによって木材への関心を持たせました。

その後、お気に入りの材料を選びクワガタムシなどの製作に入りました。見本を参考にしながら、親子でアイディアを出し合って作品を完成させ、「木材の話を聞くことができてよかった」「作品づくりはとても楽しかった」等の感想が聞かれました。

これを機会に再生できる資源、木材の役割を再認識してもらえたのではないかと考えます。



木の比重実験



親子でアイディアを出して

木材の素晴らしさに気付こう

2月24日、四万十市立蕨岡小学校1～4年生33名を対象に、木工クラフト体験を通して材料としての木材の素晴らしさに気付き、さらに森林や自然環境への興味・関心を持たせようと木工教室を行いました。

始めに、紙芝居「森」を使って、森林の大切さを説明しました。

その後、モックンとクマのストラップづくりに入りました。児童達は友達の作品と見比べながら丁寧に完成させました。

素朴な木の素材を利用することで、更に木への関心が高まったことと思います。

なお、当日はNHK高知放送局の取材がありテレビ放映されました。



誰が一番うまいかな～



完成品です

よく見て樹木の違いを見つけよう

3月1日、四万十市立蕨岡小学校で今年度3回目の森林教室として6年生16名を対象に、樹木や自然環境への興味・関心を持たせようと実施しました。

始めに、スライドでは四万十川の支流の黒尊川上流域の国有林で行っているニホンジカの食害から森林を再生する事業など、身近な自然環境への取組みを紹介。児童からは、「シカにかじられた樹木が枯れていることがわかり、驚いた」等の感想がありました。

校庭では、22本の樹木について、樹木名、名前の由来、用途、葉の特徴などについて説明しました。児童達は、事前学習をしていたとのことで、調べていた樹木名が合っていると「やったー」と喜んでいました。そして、「6年間この学校に通ってきたけれど、こんなに色々な樹木があるとは知らなかった」の声が聞かれました。

なお学習した樹木には、後日、樹木名板を取り付けるそうです。



当センターの活動内容を紹介



ここの違いに注目!!

四国森林・林業研究発表会

1月26日～27日の2日間にわたり、四国森林管理局において「平成21年度四国森林・林業研究発表会」が開催されました。当センターからは、武内、古味両名の自然再生指導官により「森林環境教育指導者の拡大を目指して」(森林の楽(学)育講座)の発表を行いました。これは平成19年度から、森林環境教育の指導者の拡大を図ることを目的として、教職員の方々を対象に開催している研修会について、その成果をとりまとめたものです。

発表の内容は、取り組みの経緯や実施状況、アンケートの集約や今後の取り組み等です。

今回の発表で最優秀賞を受賞しましたが、今後も当センターが作成した森林環境教育プログラム等の充実を図りながら森林環境教育指導者の裾野の拡大に努めていきたいと考えています。



課題について発表



「森の楽(学)育講座」の様子

大道マツ再生現地検討会

四万十町古屋山国有林で「大道マツ再生現地検討会」を3月10日に開催しました。平成16年度からボランティアによる地かき・下刈り等の保育作業や種子落下量及びアカマツの稚樹発消長調査等を実施してきました。

5カ年を経過した今年度を契機に今後の取り扱いについて、有識者、関係機関、地元住民の意見を聞くため検討会の場を持ちました。

当日は、雪の舞う生憎の天候となりましたが、熱心に現地を視察していただきました。その後、十和総合支所に移動して、当センターのこれまでの取組みや成果、課題について説明しました。意見交換では、「現存しているマツに樹幹注入などの措置をしてはどうか」「裸地化している箇所には植込みをしてはどうか」など、今後に向けて活発な意見・提言をいただきました。



現地視察中



スクリーンを活用して

事業実施箇所

- ① 昨年の台風で押し流された橋の復元を実行しました。ここは、大道林道終点から大道マツ再生事業地へつながっている遊歩道です。



遊歩道修繕完了



遊歩道修繕完了

- ② 高知県四万十市西土佐黒尊国有林では、シカの食害地の植生回復を図るためシカ防護柵を設置しています。防護柵の維持には定期的な修繕が必要です。

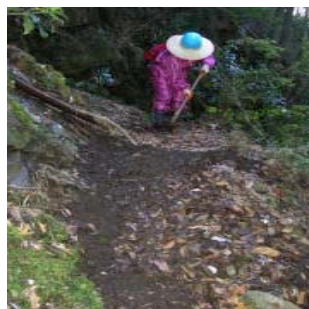


シカ防護柵点検補修



シカ防護柵点検補修

- ③ 黒尊スーパー林道(現在は市道)沿いの黒尊川源流登山道の修繕を行いました。若葉橋から熊のコルを経由して八面山や三本杭に登るルートです。



登山道修繕中



登山道修繕完了

○	高知県四万十市西土佐江川崎 2405 番地	○
○	四万十川森林環境保全ふれあいセンター	○
○	電話 0880-31-6030 FAX 0880-31-6031	○